介護と地域医療
総合討議

座長： 2番目にご発表くださいました岸田先生にご質問させていただきます。仮想的な質問法ということで、「どのくらいなら」と額を聞かれているのだと思うのですが、額を聞いたことと補助が必要とする額がどのように算出されてきたのかというあたりをご説明いただいてよいでしょうか。そのあたりをどういうふうに理解したらよいか。

岸田： 額を尋ねたのではなくて、質問で「何万円だったら入りますか、入らないですか」という形で尋ねたものです。実際の補助額の算出式は、それほど理屈は難しくはないのですけれども、ここで出すには数式がごちゃごちゃしてわかりにくいかなと思ったので、端折ってしまいました。申し訳ないのですが、論文の抜き刷りがありますので、それを見ていただいたらと思います。

あと補足的なことで言わせていただきますと、第一段階の人に関しては、生活保護世帯でサンプル数が少ないので、付帯する補助が適切かどうかというのは言えていません。他にも特定の2つの世帯の調査結果なので、方法論としては精緻なやり方でやっているつもりなのですが、パイロットスタディー的な性格もあります。

座長： 有り難うございました。

このセッションでは、今日的に大きな課題である介護、障害者に対する問題、あるいは保健活動がどのくらい評価していけるか、また今日的な新たな感染症の問題等、様々に取り上げていただきました。今後、学際的な視点で研究を進めていただき、成果を期待したいところでございます。皆様のご参加・ご協力、有り難うございました。